

# 城山中学校改築基本計画

令和2年3月

宗像市



# 城山中学校改築基本計画

## －目次－

	ページ
<b>1. 施設整備に関する状況</b>	<b>1</b>
1-1 目的・経緯	1
1-2 城山中学校沿革	1
1-3 校区について	2
1-4 生徒数等の推計	3
<b>2. 計画敷地の条件</b>	<b>4</b>
2-1 敷地の現況	4
2-2 敷地の法規制等の条件	7
<b>3. ワークショップ</b>	<b>8</b>
3-1 ワークショップの概要	8
3-2 第1回から第5回までのワークショップ内容	9
3-3 ワークショップのまとめ	12
<b>4. 施設構想</b>	<b>13</b>
4-1 整備コンセプト	13
4-2 第2次宗像市総合計画との調和	15
4-3 宗像市教育大綱	16
4-4 城山中学校の教育目標	17
<b>5. 施設計画</b>	<b>18</b>
5-1 配置計画	18
5-2 施設構想の建築計画への反映	19
5-3 施設構成の考え方	20
5-4 施設ブロックの構成	21
5-5 建築計画としての配慮	25
5-6 構造計画と設備計画	26
5-7 設計・工事スケジュール	27

# 1. 施設整備に関する状況

## 1-1 目的・経緯

現在の城山中学校校舎は昭和 48 年から昭和 49 年にかけて、屋内運動場は昭和 51 年から 52 年にかけて建設されました。このたび建築後 40 年以上が経過し老朽化が著しいことから、生徒の安全や学習環境の刷新を図るため、全面改築を実施するものです。

平成 27 年には地域の代表者などで構成する城山中学校改築基本方針検討委員会から提言書が提出され、城山中学校の改築に関する基本的な考え方、方向性が示されました。その後、市内部での協議（平成 27、28 年度城山中学校改築基本構想検討会議、平成 30 年度城山中学校改築事業推進委員会）などを経て、現地での建て替えを進めることとしました。

宗像市では、今後、福岡教育大学や令和 7 年度に開校する県立特別支援学校と市立学校との連携を強化し、小中一貫教育や特別支援教育の更なる充実を図ることとしています。城山中学校の改築にあたっては、この連携を推進する学校づくりが期待されています。また、学校施設としての機能のみならず、地域連携や災害時の拠点としての機能を持つ新しい城山中学校を実現することが求められています。

令和元年度は、地域住民代表並びに保護者、学校教職員等の協力により、地域の「意見」「想い」を新しい学校づくりに反映させるためのワークショップを開催、本改築基本計画を策定しました。

## 1-2 城山中学校沿革

昭和 2 2 年 4 月	4 月 22 日に赤間町・吉武村学校組合東部学校として開校
昭和 2 4 年 2 月	校名を城山中学校に改名
昭和 4 1 年 8 月	新グラウンド完成
昭和 4 9 年 5 月	現校舎棟へ移転
昭和 5 2 年 3 月	現屋内運動場棟完成
昭和 5 7 年 3 月	本校より自由ヶ丘中学校が分離新設
昭和 5 8 年 3 月	現武道場完成
平成 6 年 9 月	特別教室棟大規模改修工事完了
平成 7 年 9 月	普通教室棟大規模改修工事完了
平成 8 年 9 月	管理棟大規模改修工事完了
平成 1 8 年 8 月	耐震補強工事完了
平成 2 1 年 2 月	給食調理室完成

### 1-3 校区について

城山中学校の校区は、宗像四塚連山の一つである城山（じょうやま、校名の由来）の周辺に位置します。校区内には、福岡教育大学や赤間保育園があり教育環境が充実しており、また、国道3号線・JR 鹿児島本線教育大前駅・西鉄バス赤間営業所もあり交通利便性が高く、歴史ある家並みが残る唐津街道赤間宿もあり、人が集まりやすい場所です。学校の施設整備では、こういった地域特性を活かした学校づくりが求められます。なお、人や交通が集中する場所であるため、登下校時の生徒の安全、また、学校敷地に近接するJRの列車騒音に対しての配慮が求められます。

#### <通学区域(令和元年度)>

吉武小学校区 | 山附、安ノ倉、吉留、中ノ尾、向口、城南ヶ丘、武本、久戸の一部

赤間小学校区 | 赤間、石丸、富地原、名残、徳重、田久の一部、栄町、陵厳寺、三郎丸団地、緑町、広陵台一丁目、広陵台二丁目、広陵台三丁目、広陵台四丁目、広陵台五丁目、久戸の一部、葉山、桜、マンション赤間一区、桜美台

赤間西小学校区 | 土穴、城ヶ谷、赤間ヶ丘一区、赤間ヶ丘二区、城山、三郎丸、大谷、泉ヶ丘一丁目、泉ヶ丘二丁目、アーサー赤間駅前、アンピール赤間駅前

#### <歴史>

江戸時代から明治の鉄道開通まで、物資の集積する唐津街道の宿場町として栄えた赤間宿に近く、白壁や格子窓といった家並みが残る歴史ある地区の中にあります。また、現在の城山中学校グラウンドの場所には当時、休憩や宿泊のための御茶屋が置かれていました。現在も赤間宿まつり等の地域行事が行われており、後世へ歴史を伝える地域特性が残っています。

#### <主要周辺施設>

○国立大学法人福岡教育大学 ○JR 教育大前駅 ○西鉄バス赤間営業所 ○赤間保育園



計画場所 | 福岡県宗像市陵厳寺一丁目 13 番 1 号

## 1-4 生徒数等の推計

新校舎の規模、教室数等を設定するため、以下に、令和元年までの生徒数等の実績値(毎年5月1日現在の実績値)を示すとともに、将来の推計値を提示します。

令和2(2020)年から令和7(2025)年までの推計値は、城山学園に在籍する児童生徒が、現状のまま学年進行したと仮定して推計しており、令和12(2030)年から令和27(2045)年までの推計値は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」の数値を基本に5年ごとの推計をしています。

### <生徒数> (単位：人)

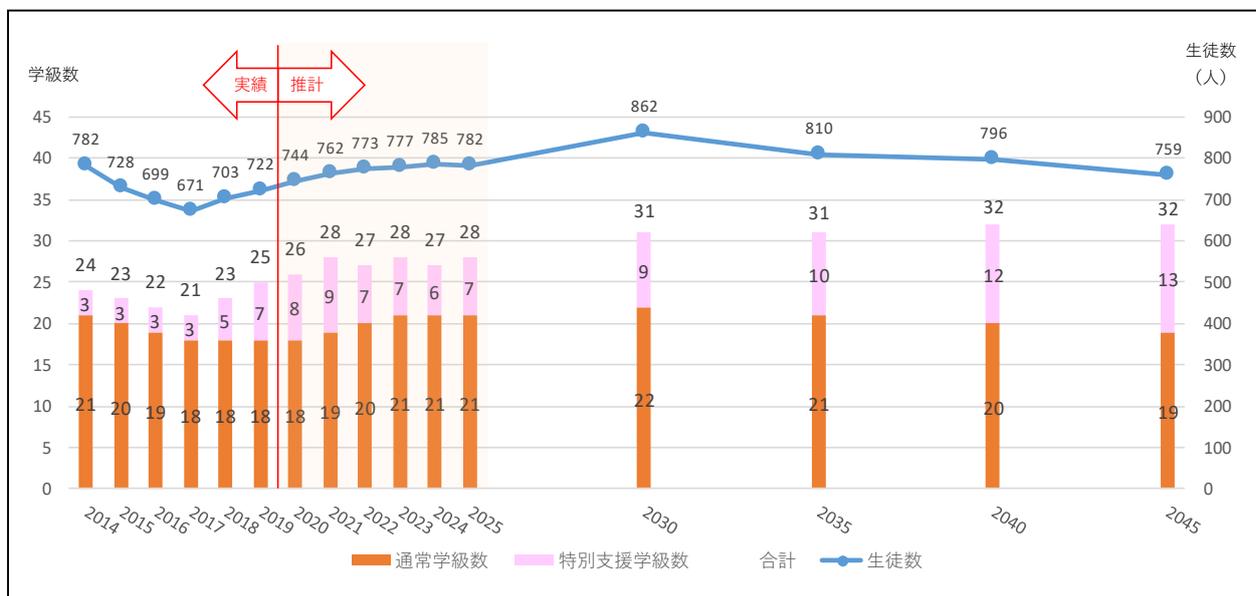
	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022	2023	2024	2025	… 2030	… 2035	… 2040	… 2045
実績	782	728	699	671	703	722	推計	744	762	773	777	785	782	862	810	796	759

### <通常学級数> (単位：学級)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022	2023	2024	2025	… 2030	… 2035	… 2040	… 2045
実績	21	20	19	18	18	18	推計	18	19	20	21	21	21	22	21	20	19

### <特別支援学級数> (単位：学級)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022	2023	2024	2025	… 2030	… 2035	… 2040	… 2045
実績	3	3	3	3	5	7	推計	8	9	7	7	6	7	9	10	12	13



## 2. 計画敷地の条件

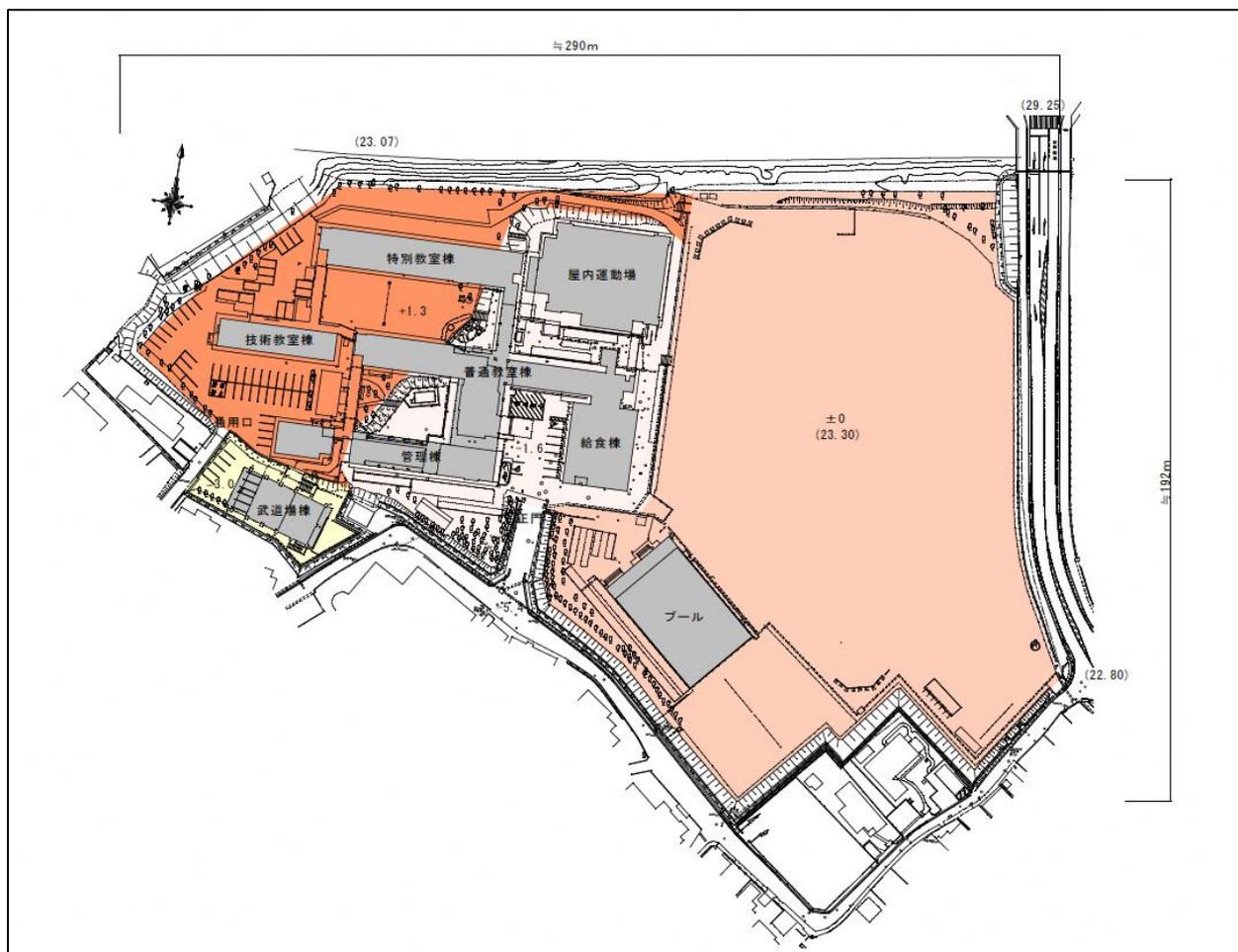
### 2-1 敷地の現況

#### <隣地状況>

- 北側 | J R 鹿児島本線
- 東側 | 主要地方道(県道)直方宗像線(幅員 15.3m)
- 南側 | 市道赤間 14 号線(幅員 7.0m)、民地
- 西側 | 民地

#### <敷地形状>

東西約 290m、南北約 190m、敷地面積約 32,000 m<sup>2</sup>の敷地です。西側は南北間が狭く、不整形な敷地です。敷地西側に、屋内運動場棟・校舎棟・武道場棟が位置し、敷地には大きく 4 つの高低差があります。また、東側はほぼ平坦なグラウンドとなっており、今回改築する建築物の予定地となっています。なおこの敷地は、城山の山すその尾根と谷を造成してつくられた経緯があり、現在でも谷筋を流れていたと思われる水路が暗渠としてグラウンド下を横切っていて、工事に際しては注意及び保全が必要となります。

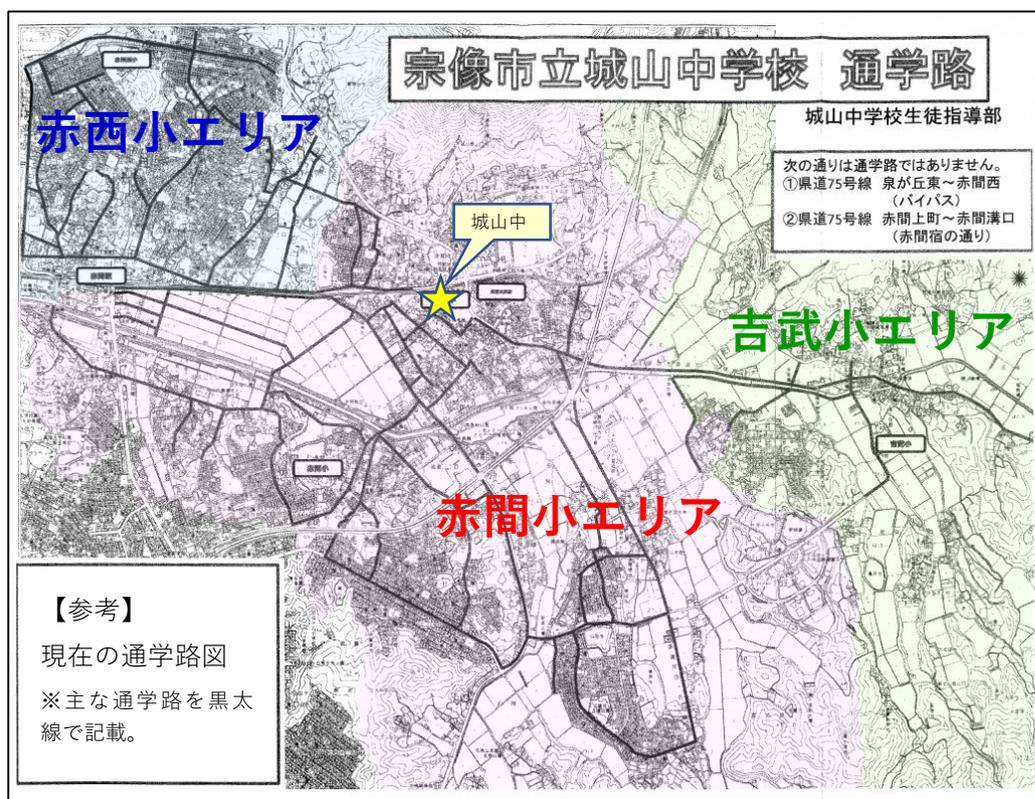


## <周辺交通状況について>

### ○現在の通学状況

城山中学校の通学路は下図のとおりです。大きく分ければ、城山中学校を中心に以下の3つのエリアに分けており、それぞれから生徒が通学（自転車通学が多数）しています。学校近辺では多くの生徒が自転車及び徒歩で比較的狭い市道を通っており、現在の正門から学校内に入ったりしています。

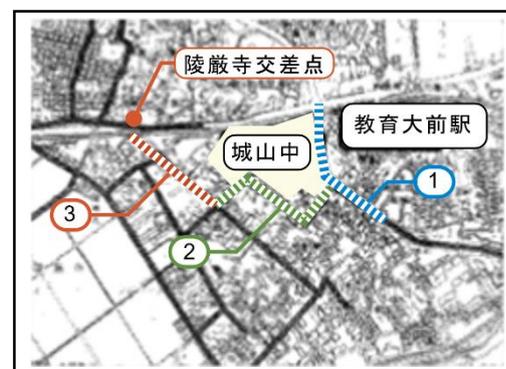
- ・赤間小学校区エリア：生徒の約6割、近隣は徒歩、交通量が多く道狭い傾向
- ・赤間西小学校区エリア：生徒の約3割、主に自転車、JR鹿児島本線の踏切通る
- ・吉武小学校区エリア：生徒の約1割、主に自転車、人通りが夜間少ない道多い



### ○学校近辺における通学時の安全性（危険箇所）

学校近辺の道路、特に市道は、登校時の時間帯と保育園送迎の車が重なること、狭く・直線ではなく・高低差がある道路であることから、安全性が低い状態（主に以下の①～③の通り）です。

また、特に下校時(下校時間は時期により異なる)については、完全下校時刻が決まっているため、登校時に比べて生徒の移動が重なりやすくなります。また薄暗い時間帯は一層の見えづらさがあり、特に安全性の確保が求められる状態です。



① 東側県道

県道と、中学校敷地側から交差する市道に高低差があり、車の動きが見えづらい上に、スピードを出している車が多く走っています。また、交差点には、信号機や横断歩道は設置されていません。

② 南側市道

通学時間帯には、保育園送迎の車の往来が多くなります。市道が直線でないことや、高低差があることから、歩行者・自転車と車相互に見えづらい道路となっています。

③ 陵巖寺交差点から市道にかけて

踏切内で車と生徒が交錯しやすくなっています。また、市道に高低差がありスピードが出やすくなっています。赤間保育園第2駐車場付近は、車の往来・保育園送迎の親子・自転車等が行き交い危険です。

○学校近辺の交通状況における課題

改築事業(特に正門位置の変更)にあたっては、現状から予想される通学時の混雑や危険性、工事中の車両動線について、上記の安全性を十分に考慮した上で検討していく必要があります。また、必要に応じて、街灯・信号・横断歩道の設置等について警察等道路関係機関との協議を行い、通学路の変更や通学方法の見直しを行う等、交通状況においては生徒の安全性を第一に考えていく必要があります。

## 2-2 敷地の法規制等の条件

改築事業では、建築基準法及び建築基準関係規定のみではなく、その他関連法令による規制等を踏まえて計画を進めます。以下に、敷地の状況をはじめ、計画にあたって関連する代表的な法令等を示します。

### <敷地について>

住居表示 | 福岡県宗像市陵厳寺一丁目 13-1

地名地番 | 福岡県宗像市陵厳寺一丁目 386-1

敷地面積 | 32,078 m<sup>2</sup>

都市設備 | 上水:宗像地区事務組合、下水:宗像市、電力:株式会社サニックス、LP ガス:JA 宗像

雨水排水 | 道路側溝に放流

### <用途地域・地区等>

用途地域 | 第1種住居地域<建ぺい率/容積率 | 60%/200%>

防火地域 | 建築基準法第22条区域

日影規制 | 3時間/5時間/受影面 4.0m

景観計画区域 | 景観形成一般区域

都市機能誘導区域 | JR 教育大前駅周辺

### <関連する法令等>

宗像市関連条例等 | 宗像市建築行為届出要綱・宗像市開発行為指導要綱・宗像地区事務組合火災予防条例・宗像市下水道条例・宗像市景観条例・宗像市屋外広告物条例

福岡県関連条例等 | 福岡県福祉のまちづくり条例・福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例

教育法令関連 | 学校教育法・文化財保護法

環境法令関連 | 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)・建築物における衛生的環境の確保に関する法律(ビル管法)・振動規制法・騒音規制法・大気汚染防止法・土壌汚染対策法

産業法令関連 | 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律(建築物省エネ法)・高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)・道路法・建設工事公衆災害防止対策要綱(鉄道近接工事の協議)

## 3. ワークショップ

### 3-1 ワークショップの概要

#### <目的>

本計画に市民の意見を反映するため、代表者に新しい学校づくりに関する「意見」や「想い」を自由に話し合っていたいただき、意見を聴くことを目的とし、全5回のワークショップを開催しました。ワークショップでは、以降に記す2つのワークを通して、施設構想、施設計画（配置計画・ブロック構成）の策定につながる意見をいただきました。

#### <参加者>

- ・城山中学校教職員代表 4人
- ・吉武、赤間、赤間西小学校教職員代表 各1人
- ・小、中学校の保護者代表 各3人
- ・吉武、赤間、赤間西地区コミュニティ運営協議会から選出された代表 各3人
- ・城山中学校生徒代表 8人（第2回に参加）

#### <日程>

- 第1回 | 7月24日(水)
- 第2回 | 8月19日(水)
- 第3回 | 9月30日(月)
- 第4回 | 10月28日(月)
- 第5回 | 1月29日(水)



■ワークショップの様子

#### <ワークのテーマ>

##### ワーク1 | 「学校のコンセプト・方針づくり」

- 第1・2回 | 学校・地域に対する想いを共有
- 第3回 | 共通のキーワードの抽出と5つのコンセプトづくり
- 第4・5回 | 5つの整備コンセプトを共有、コンセプトタイトルの検討・決定

##### ワーク2 | 「配置・平面計画」

- 第1回 | 理想の配置案の検討
- 第2回 | 前回の配置案を分類し、工程・期間を含めた複数の配置案を提示
- 第3回 | これまでの意見を踏まえ、市の検討方針を提示  
その方針の中での現グラウンド内での配置案の検討
- 第4回 | 前回の配置案を整理し、階数・工期等の違う配置案を提示し、意見交換
- 第5回 | ワークショップでの最終配置案を提示し、意見交換

## 3-2 第1回から第5回までのワークショップ内容

### <第1回>

#### ワーク1 | 考え、想いを発表しよう！

以下のテーマに沿って、様々な意見を頂きました。

テーマ①城山中学校区はどんなところ？

テーマ②今の学校はどんなところ？

テーマ③こんな城山中学校・校区になるといいな！

#### ワーク2 | 建物の配置について考えてみよう！

以下のポイントとワーク1の意見を含めて、配置について自由に考えて頂きました。

1. 正門・校門の位置(安全性・利便性・雰囲気)
2. グラウンドの位置(グラウンドの大きさ等)
3. 駐輪場・駐車場の位置(安全性・利便性・雰囲気)
4. 校舎や教室の位置
5. 体育館や武道場の位置

寄せられた主な案・意見>>>

ワーク1 | ・人のつながりを大切にする地域・大学もあり教育環境がよい・交通の便がよい

ワーク2 | ・正門位置を変更したい ・グラウンドが見える職員室の位置 ・体育館の重層化

### <第2回>中学生を中心にワークを進めました。

#### ワーク1 | 考え、想いを発表しよう！

第1回のワークを振り返りながら、中学生の意見を聴きました。



#### ワーク2 | 建物の配置について考えてみよう！

第1回ワークショップでの意見を基に、5つの配置プランを提示し、<学習環境・グラウンドの広さ・完成までの時間・工事中の学習環境・工事中のグラウンド・周辺住民への配慮>等について、各案の良いところ、気になるところを話し合いました。

寄せられた主な意見>>>

ワーク1 | ・周辺道路が狭く、見通しが悪い・校門の位置を変えてほしい。

・他学年と交流、学年を超えたワークをするためのスペースがほしい

ワーク2 | ・工事中の学習環境に配慮して欲しい・工事期間を短くしてほしい

・工事中の生徒の安全を確保してほしい

## <第3回>

### ワーク1 | 整備コンセプトを考えよう

これまでのワークで集まった意見を基に、キーワードを抽出・提示し、その中から整備コンセプトに取り入れたいキーワードを選びました。

キーワード抜粋

- ・安全・安心・バリアフリー ・赤間宿にあう校舎 ・周辺環境に溶け込む校舎
- ・シンプル ・多様な人との出会い ・人が集まっても大丈夫な機能性
- ・災害時の拠点 ・災害に強い ・交通・歴史・教育の拠点 ・人がつながる拠点

### ワーク2 | 配置を検討してみよう

第2回ワークショップでの意見を踏まえ、宗像市の検討方針を説明しました。現在の敷地の範囲内で、現グラウンド側を中心に新校舎を建築する方向性について理解をいただき、その条件のもと配置を検討いただきました。

検討方針①校舎配置は、現在のグラウンド側で検討をすすめます。

検討方針②グラウンド使用への影響を、最小限とするよう対策を講じます。

検討方針③現プールを残した整備計画とします。

寄せられた主な案・意見>>>

ワーク2 | ・校舎・建物の重層化・電車音への配慮・正門位置の変更・明るい校舎・管理しやすさ

## <第4回>

### ワーク1 | コンセプトタイトルをつくろう

前回選出したキーワードから、整備コンセプト（12ページ参照）を抽出し、建築計画へのつながりを共有しました。また、整備コンセプトを踏まえて、コンセプトタイトルを考えました。

### ワーク2 | 配置案に意見を出し合おう

第3回ワークショップの配置案のポイントをまとめ、またコンセプトやこれまでの意見を踏まえて、階数・体育館位置・校舎配置レイアウトが違う3つの配置プランを提示し、意見をいただきました。

寄せられた主な意見>>>

- ・体育館は地域開放時に使いやすい東側がよい。
- ・校舎棟は4階建て、もしくは普通教室が4階までがよい。
- ・体育祭が行えるグラウンドの広さが必要。
- ・駐車場台数を増やしてほしい。
- ・工期が長くなること、体育館への仮設渡り廊下を避けたい。
- ・中学校の先生の意見を聞いて欲しい。

⇒第4回の意見を受けて、中学校の先生との打合せ・他校視察を行いました。

## <第5回>

### ワーク1 | コンセプトタイトルを決定しよう

第4回ワークショップで考えて頂いたコンセプトタイトル案からコンセプトタイトル（12ページ参照）を決定しました。

### ワーク2 | 配置案に加えたい意見や感想を出し合おう

第4回ワークショップでの意見、城山中学校の先生との意見交換・他校視察の内容を踏まえ、ポイントを整理し、4階建てで工事期間の短い配置案を提示し、意見交換を行いました。

寄せられた主な意見>>>

- ・中庭の活用を検討 ・駐輪場は校門のすぐそばがよい・地域開放に有効な出入り口の検討
- ・避難時に使いやすい工夫、アリーナへの周回スロープ・卓球場の検討 ・特徴のあるデザイン
- ・維持管理のしやすさ・体育館などの屋上の活用・通学路の検討
- ・将来用地を当面グラウンドとして一体的に活用⇔屋根をつけ雨天時に活用 ほか

⇒第5回で寄せられた意見については引き続き検討を行います。

### 3-3 ワークショップのまとめ

#### <ワーク1 | 「学校のコンセプト・方針づくり」>

「コンセプトタイトル」「整備コンセプト」は本計画の4. 施設構想に、「建築計画へ反映したい内容(案)」は5. 施設計画に反映します。また、その他の意見は別紙にまとめ、改築事業に出来るだけ反映することとしました。

コンセプトタイトル	整備コンセプト	建築計画へ反映したい内容(案)
「歴史」「文化」「人」 城山中学校 がつながる	①安全・安心・バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 正門の位置の変更</li> <li>■ 生徒・職員・車の動線の整理</li> </ul>
	②歴史・教育・交流・交通・災害時の拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多目的ホールなどの体育館以外の集まれる場所づくり</li> <li>■ 災害時の拠点となる場所づくり</li> <li>■ 駐車場を増やすこと</li> </ul>
	③豊かな自然・赤間宿になじむシンプルな校舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 赤間宿になじむ、木を使った自然を感じる空間づくり</li> <li>■ 将来的な可変が可能なシンプルな校舎</li> </ul>
	④生徒・先生が、のびのび過ごせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生徒数が多くても機能する学校</li> <li>■ 充実した運動施設</li> </ul>
	⑤地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域開放できる部分づくり</li> <li>■ 地域開放時に利用しやすい平面・動線計画</li> </ul>

#### <ワーク2 | 「配置・平面計画」>

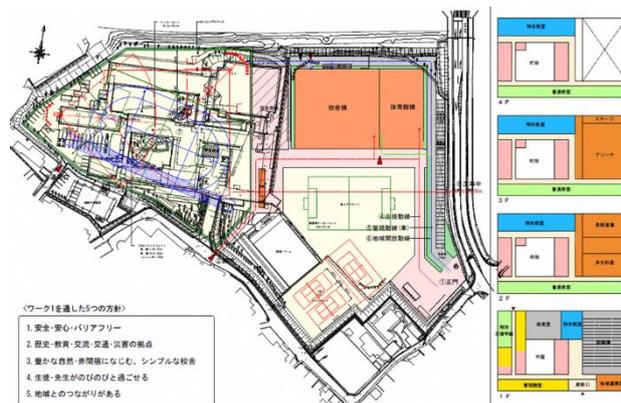
「配置計画」「平面計画」は本計画の5. 施設計画に反映します。第5回ワークショップで寄せられた意見など残る課題については改築事業の中で引き続き検討を行います。

##### ○配置計画

- ①正門 | 県道側に設置。車・歩行者を想定。
- ②裏門・通用口 | 自転車・歩行者を想定。
- ③動線の整理・歩車分離 | 生徒動線・地域開放動線・管理動線(車)の整理、歩車分離の計画。
- ④グラウンド機能 | 200mトラック・100m直線走路・野球・ソフトボール・サッカー・テニスコート・ランニングスペース。
- ⑤工事中のグラウンドの広さ | グラウンドの最低限の広さを確保するための南限ラインの設定。
- ⑥工事中の動線・工程 | 生徒動線と混在しない工事動線。学習環境へ配慮し短い工程計画とする。

##### ○平面計画

- ①建物は4階建とする。
- ②校舎西側に将来用地を確保。
- ③地域開放ゾーンを東側に設定。
- ④地域連携、大学連携、その他多目的に利用できる多目的室・連携室を設置。
- ⑤普通教室は全て南向きの明るい教室。
- ⑥線路からの騒音対策に配慮する。



■第5回での検討案

## 4. 施設構想

城山中学校は、生徒数が700人を超える、福岡県では比較的大規模な中学校です。また、恵まれた立地条件(交通・周辺施設・歴史ある地区・コミュニティの強いつながり)をもつことから、「歴史」「文化」「人」がつながる城山中学校を目指し、教育環境の向上を図るため、施設整備を行うことが望まれています。

また、「第2次宗像市総合計画」「宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画」との整合性をもち、市の施策や城山中学校の教育目標に調和する改築事業が求められるものとなります。

### 4-1 整備コンセプト

ワークショップのワーク1で頂いた意見や想いを受け、5つの「整備コンセプト」と、それらをまとめるキーワードである「コンセプトタイトル」を施設構想の中心に据えました。

#### <コンセプトタイトル>

#### **「歴史」「文化」「人」がつながる城山中学校**

城山中学校は、福岡教育大学に近接し、交通利便性が高く、歴史ある地区に位置し、加えて、地域のつながり、人と人とのつながりが強い地域に立地しています。

新しい学校づくりは、これらの特性をいかし、生徒同士、先生と生徒、学校と地域、地域相互がつながる空間づくりを行い、教育環境の向上を図るとともに地域の拠点となる「歴史」「文化」「人」がつながる城山中学校を目指します。

#### <5つの整備コンセプト>

1. 「安全・安心・バリアフリー」
2. 「歴史・教育・交流・交通・災害時の拠点」
3. 「豊かな自然・赤間宿になじむシンプルな校舎」
4. 「生徒・先生が、のびのび過ごせる」
5. 「地域とのつながり」

## <整備コンセプトの背景>

改築事業を進めるにあたっては、ワークショップで抽出された5つの整備コンセプトの背景である様々な想いを大切にします。

### 1. 「安全・安心・バリアフリー」

現在の学校施設や校区の課題である、登下校時の通学路の危険性や校舎の複雑さ、バリアフリーになっていないことを理由として、「安全であること」「安心できること」「バリアフリーであること」を求める意見が、最も多く出されました。

### 2. 「歴史・教育・交流・交通・災害時の拠点」

城山中学校校区の好きな点について、赤間宿の歴史、福岡教育大学が近接する教育環境、国際交流が活発であること、交通利便性がよいこと、高台にあり災害時に優位なことなど、立地条件の良さを校舎に活かして欲しいとの意見が多数あり、地域の拠点となる学校を望む声が多く出されました。

### 3. 「豊かな自然・赤間宿になじむシンプルな校舎」

高低差のある敷地形状や校舎配置による、正門の位置の分かりにくさ、校舎内の動線の複雑さの解消を望む意見があり、シンプル(分かりやすさ・動きやすさ)な校舎を望む意見が見られました。また、城山のふもとに広がる自然豊かな環境や歴史ある家並みは、子ども達の教育環境に適した地域の特性であり、受け継がれてきた自然環境や歴史、景観への配慮が必要であるとの意見も出されました。

### 4. 「生徒・先生が、のびのび過ごせる」

生徒数が多いことから、様々な人との出会いがあるという利点がある一方で、教室などが十分な広さでないことについて、改善を望む意見が多く出されました。加えて、部活動も活発であるため、その施設を充実させたいといった意見、先生の負担減にも配慮してほしいという意見も出されました。

### 5. 「地域とのつながり」

地域のつながり、人と人とのつながりが強い地域であるということで、新しい学校にも地域とのつながりを考慮してほしいという意見が多く出されました。

## 4-2 第2次宗像市総合計画との調和

基本構想に示す将来像である「ときを紡ぎ躍動するまち」を実現するため、本計画では総合計画に沿って、以下の施策との協調を目指します。

### <市民・企業・行政・大学との連携>

市民・企業・行政・市内の大学の連携により、総合計画の基本方針である『まちの成長「量的増加」』『まちの成熟「質的向上及び付加価値の創造」』につなげます。

### <SDGs>

今後の改築事業においては、SDGs(エスディージーズ/持続可能な開発目標)という共通言語を持ち、持続可能な理想的な教育環境の構築を目指します。特に、後期基本計画で提唱されている、学校施設の充実に向けた「ゴール4：質の高い教育をみんなに」への取組を重視します。

### 4-3 宗像市教育大綱(平成 30 年度～令和 3 年度)

宗像市教育大綱は、本市の教育行政を推進するための基本方針であり、教育分野の基本方針と基本目標を示すものです。本計画では本市の総合計画と同様に、教育大綱の理念に沿った計画とします。

#### <教育の基本理念>

##### ～持続可能なまちづくりをリードする教育に～

「教育」は人づくりの基本であり、魅力ある「まちづくり」の礎です。

宗像市がこれまで築きあげてきた“教育のまち、むなかた”としての取組をさらに充実させ、学校・家庭・地域が協働した、宗像ならではの特色ある教育活動を展開することで、心豊かで輝く子どもたちを育むとともに、市民一人ひとりの可能性を最大限伸ばします。

そして、「みんなでつくる」「未来につなげる」「元気で住みやすい」まちづくり、将来にわたって持続可能なまちづくりにつなげてまいります。

#### <基本方針>

次の3つを基本的な方針とします。

- ・子どもたちの未来が拓かれる人づくり
- ・世界に誇る遺産を次世代につなぐ人づくり
- ・スポーツや文化で輝く人づくり

#### <基本目標>

次の7つの基本目標の実現を図ります。

- (1)多様な子育て支援と共生社会の形成に向けた取組を推進します  
～子どもの健やかな成長はみんなの願い～
- (2)安心して子どもを産み、楽しく子育てができる環境をつくります  
～子どもと子育て家庭をみんなで応援～
- (3)自立しかかわりを深める子どもを育成します  
～家庭・地域と協働した学校づくり～
- (4)お互いを尊重し、そうぞう力を持って、世界とコミュニケーションできる人材を育てます  
～加速するグローバル化に対応～
- (5)歴史文化を大切に守り、次世代に伝えて「ふるさと宗像」への誇りと愛着を育てます  
～世界遺産のあるまち“宗像”を学び、守り、つなげる～
- (6)スポーツと文化芸術に親しむ、心身ともにたくましい子どもを育てます  
～スポーツで笑顔・元気 文化芸術でまちがもっと好きになる～
- (7)生涯を通して学び、その成果をまちづくりにつなげる市民を増やします  
～市民力がつくる生きがいのあるまち～

#### 4-4 城山中学校の教育目標(令和元年度)

本計画では宗像市教育大綱と同様に、城山中学校の教育目標に沿った計画とします。

##### <教育目標>

##### ～かかわりを深め、豊かな心を持ち、考えを高め合うたくましい子どもの育成～

###### ○目標の意味

家族や友達や教師、さらには地域の人たちとの「かかわりを深める」ことを通して、自他の人権を尊重し、よりよく生きようとする「豊かな心」を培ったり、かかわった人たちとともに「考えを高め合う」ことをしたりして、心身ともに「たくましい」子どもを育てること

##### <具体目標>

###### (1)目指す学校像(保護者・地域に開かれ、信頼される学校)

○家庭や地域と協働し、主体的に社会に参画・貢献する子どもの育成に専念する学校

○安心・安全で支持的風土があり、規律ある中にも生徒が楽しく過ごせる学校

○あいさつが交わされ、明るく、活気のある学校

###### (2)目指す子ども像(城山学園後期の目指す子ども像)

J：自主 主体的に学び合い、問題発見・解決する子ども

J：自律 多様な考えや立場を理解する子ども、地域社会のために役に立とうとする子ども

J：自信 自分の役割を認識し自分に自信をもつ子ども

## 5. 施設計画

今回の施設計画の策定にあたっては、文部科学省の定める中学校施設整備指針に準拠した計画とします。また、これまでに述べてきた事項に加えて特に配慮することや、計画にあたっての設定と条件等について、以下に示します。

### 5-1 配置計画

#### <敷地内での建物配置について>

現在の敷地は、高低差のある敷地で、また、校舎間の距離(隣棟間隔)が狭い建物配置となっています。このような現況から配置計画を立案するにあたり、ワークショップでは敷地拡張も含めて複数の配置計画案を提示しました。検討の中で、「短い工期計画が望ましい」「工事中の学習環境を大切にしたい」との意見が多く寄せられたことから、現在のグラウンド内に単一工期で建設が可能な案を基本として計画を進めることになりました。

また、グラウンド内での配置場所については、ワークショップでは、「明るい校舎」「管理のしやすさ」「工事中のグラウンド確保」「近隣住居への学校騒音の配慮」「拠点施設としての拡張性」を望む意見が多く寄せられました。それらの意見を踏まえ、建物はグラウンド北側に設定することとしました。ただし、北側線路敷からの列車騒音に対する危惧の意見も寄せられていて、改築事業に際しては騒音への配慮を検討する必要があります。



## 5-2 施設構想の建築計画への反映

コンセプトタイトル及び整備コンセプトの立案を受けて、以下の事項を中心として、建築計画へ反映することとしました。

### <特徴的な空間づくり>

コンセプトタイトル「歴史」「文化」「人」がつながる城山中学校を念頭に置いた空間づくりを行います。

校舎棟には、中庭や共用廊下などで、クラスや学年を超えたつながりがもてる空間をつくります。また、自然豊かな城山や歴史ある赤間宿に視線を向けることができる空間をつくります。

体育館、地域連携室、多目的室などの地域開放施設は、大学や地域との交流を深めるため、多様な使い方に対応できる空間とします。

### <整備コンセプトの建築計画への反映>

#### 1. 「安全・安心・バリアフリー」

正門の位置を変更することで、より安全な通学路の設定を行うと共に、歩車動線の整理を行うきっかけをつくります。また、安全な学校運営のため、校内及び敷地内のバリアフリー化を進めます。

#### 2. 「歴史・教育・交流・交通・災害時の拠点」

多目的室など、体育館以外に人が集まれる場所づくりを行い、地域連携や災害時の拠点となる施設づくりを行います。また、福岡教育大学との教育連携強化及び令和7年度開校予定である県立特別支援学校との連携推進につながる学校とします。

#### 3. 「豊かな自然・赤間宿になじむシンプルな校舎」

赤間宿になじむ、歴史感がある空間づくりを行うと共に、城山の木を材料とした、木質感あふれる空間づくりを行います。また、将来の教育環境の変化や、学校へ求められるニーズの変化に対応しやすい、可変性のあるシンプルな校舎を計画します。

#### 4. 「生徒・先生が、のびのび過ごせる」

コンパクトかつ効率的な動線等使い勝手のよい施設をつくり、生徒・先生が快適に過ごせる学校とします。また、生徒がのびのびと活動できる充実した運動施設を持つ学校とします。

#### 5. 「地域とのつながり」

地域開放できる部分を持つ学校づくりを心掛けます。また、屋内運動場棟を正門側に配置するなど、地域開放時に利用しやすい平面・動線計画に配慮します。地域と学校がつながり、ともに学ぶ学校とします。

### 5-3 施設構成の考え方

#### <方向性>

校舎は敷地の有効活用の点から、地上4階建てとする重層化と、校舎棟と屋内運動場棟を一棟とするコンパクト化を念頭に計画します。

また、校舎西側に将来用地をもつことで、拠点施設として拡張性のある建物とし、教育環境の変化や、学校へ求められるニーズの変化に対して、当初の理念を活かしながら応えられるものとし、ます。

現在のグラウンド北側に校舎を配置することで、メイングラウンドは現在の校舎棟エリアに整備します。正門位置は、南東の県道側に移動します。敷地内での歩車分離を行うため、校舎南側を歩行者エリア、北側と県道側を車エリアとします。なお、メイングラウンド外周部を利用したランニングスペースや、テニスコートの整備を行い、運動施設の充実を目指します。

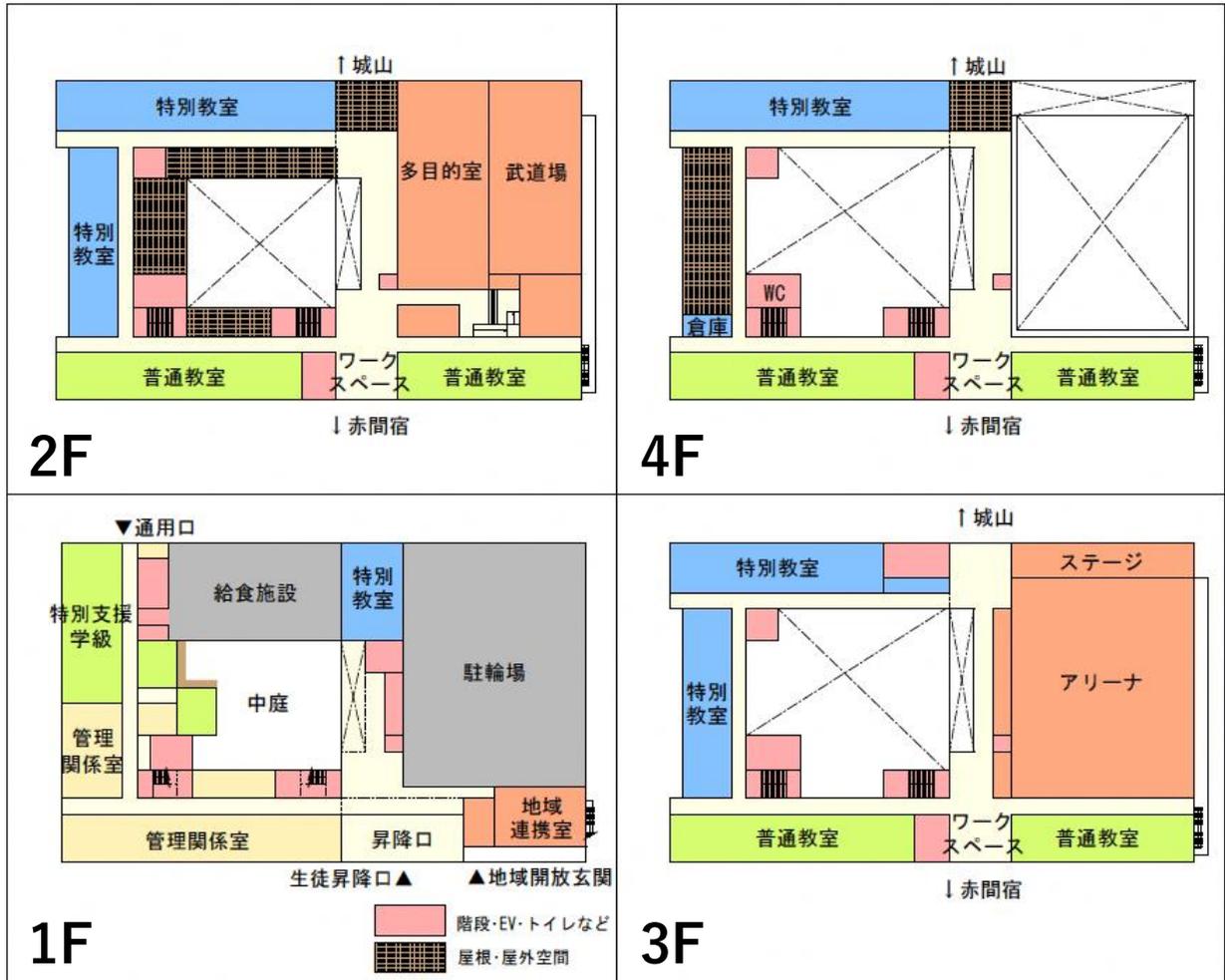
その他、エレベーターの設置やユニバーサルデザインの採用、校内のバリアフリー化を進めることや、明快な男女区分のないトイレ計画への対応をはじめ、誰にとっても使いやすい施設として整備します。

#### <避難所として>

城山中学校は指定避難所(体育館)兼指定緊急避難場所となっていることから、防災拠点としての機能を確保します。詳細は、担当部署との協議により決定するものとし、ますが、防災用備蓄倉庫や防災資機材倉庫などの設置に配慮します。

## 5-4 施設ブロックの構成

### ■ ブロック平面図（例）



#### <普通教室ブロック>

普通教室 | 普通教室は、全ての教室において南側からの自然採光を確保することで、明るく居心地の良い学習空間とします。また教室後方に教育実習や研究授業などでの参観スペースを確保した平面形状とします。

ワークスペース | 少人数指導や習熟度別学習などの多様な学習形態に対応できるスペースや教職員のスペースなど、多目的な場所として利用できるような位置・形状とします。また、学級数の増加に対応できるように、普通教室への転用が可能な計画とします。

#### <特別支援学級ブロック>

教室 | 保健室・職員室から近い位置に配置し、ひとまとまりのゾーンを形成します。

通用口 | 昇降口とは別の通用口を設置し、集団での登下校が苦手な生徒への配慮を行います。

将来拡張 | 必要クラス数の増加に伴う将来拡張を想定し、将来用地に近い場所に配置します。

### <特別教室ブロック>

理 科 教 室 | 授業時間が多く利用頻度の高い理科教室は2階に配置します。また、3室のうち一つを実験用流しのないフレキシブルな理科教室とすることで、多様な授業で利用できるものとします。

音楽教室・美術教室 | 音楽教室は最上階へ設け、ひな壇形状の部屋としながらも天井高さを確保して、音の響きのよい教室環境とします。また隣室に美術教室を設け、総合芸術ゾーンとして相互に高めあう空間を目指します。

家 庭 教 室 | 調理室・被服室は、調理実習時の匂いに配慮し、また、避難時の炊き出しのしやすさにも配慮して3階に設置します。

技 術 教 室 | 技術教室は、木工室と金工室を併用させたハイブリッド型教室として、他教室への音の配慮や、教材の搬入の利便性から1階に配置します。

図書室・コンピュータ教室 | 図書室とコンピュータ教室は近接して設け、学校図書室の学習・メディアセンター機能を強化し、生徒の利用促進に配慮します。

### <管理諸室ブロック>

職 員 室 | グラウンドが見えやすく、また、昇降口から近く、生徒の登下校も見える位置とします。

保 健 室 | メイングラウンドとの連携と特別支援学級ゾーンとの連絡を考慮し、校舎棟1階の西側へ設置します。

### <運動施設ブロック>

体 育 館 | 生徒数からの規模と地域の屋内運動施設として充足する大きさと機能とし、地域開放時の中心ブロックとします。また、災害時の避難所として利用しやすい施設とします。

武 道 場 | 学年集会などでの小ホールとしても使用できるように、柔剣道場を仕切らず、床段差のない室とします。

グラウンド機能 | 200Mトラック、100M直線走路、野球、ソフトボール、サッカーコート(90×60M)、テニスコート(3面)、ランニングスペースを確保したグラウンドとします。校舎南側には、サブグラウンドを確保します。

### <地域開放ブロック>

地 域 開 放 部 分 | 体育館・多目的室・地域連携室を想定します。

地 域 連 携 室 | 子育てサロンやPTA会議、大学連携時など、多目的な利用ができるように、屋内運動場棟1階に専用出入口を設けて、使いやすい場所に設置します。

多 目 的 室 | 教育実習などの大学連携の場や、PTA総会の場所として、また、学年集会にも利用する事を想定した部屋とします。また、複数の室に分割できるように移動間仕切を設けます。

### <給食室ブロック>

給食室 | 食材等の運搬車両の利便性に配慮し、車両動線やサービスヤードに接した、校舎北側1階に配置します。

配膳室 | 給食を安全に運搬・保管するため、各階に配膳室を配置し、配膳車を運搬するためのエレベーターを設置します。

### <その他>

駐車場 | 教職員用として60台分、来客用として10台分程度、計70台分程度の駐車枠を設けます。なお、地域開放時などの際は、将来用地などに駐車できるように、舗装計画を検討します。

自転車駐車場 | 生徒の約7割が自転車通学を行っていることから、500台から550台程度分の駐輪場を屋内運動場棟1階に確保します。



<施設構成表>

現時点での学校規模と、1-4 で示した生徒数及び学級数の推計を踏まえ、以下の施設規模を予定します。

	用途	計画コマ	室数		用途	計画コマ	室数
通常学級	普通教室	1.0	21	管 理 関 係 室	生徒会室	0.5	1
特別支援学級	特別支援学級	≒50㎡	7		カウンセリング室	0.5	1
特別教室	理科教室	1.5	3		教材室	0.5	3
	理科準備室	0.5	2		給食施設	400㎡	1
	音楽教室	1.5	2		校長室	0.5	1
	音楽準備室	1.0	1		応接室	0.5	1
	美術教室	1.5	2		職員室	3.0	1
	美術準備室	0.5	1		印刷室	0.25	1
	技術教室	1.5	1		職員用更衣室	0.33	2
	技術準備室	1.0	1		放送室	0.25	1
	家庭教室	1.5	2		会議室	1.0	1
	家庭準備室	0.5	1		保健室	1.5	1
	コンピュータ教室	1.5	1		相談室	0.25	3
	図書室	1.5~2	1		事務室	0.5	1
屋内運動場	教官室	0.25	1		倉庫	0.25	2
	玄関	-	1		用務員室	0.25	1
	体育室	980㎡	1		配膳室	-	4
	更衣室	-	2		地域連携室	-	1
	器具室	-	2				
	武道場	450㎡	1				
	部室(内部8)	-	8				
	多目的教室	400㎡	1				
	備蓄倉庫	-	1				

○普通教室1室を1コマとして検討。

○普通教室サイズは、W7.5m×H9.6m程度を想定。

## 5-5 建築計画としての配慮

多様な学習内容・学習形態に対応するとともに、敷地の有効活用の観点から、建物の空間利用密度を高める必要があります。一方、生徒や教職員が、のびのびと過ごせる建築的な配慮が求められるため、以下の事項に配慮することとします。また、建物の長寿命化によるライフサイクルコストの低減など、近年の施設計画の重要な課題に対しても対応していく必要があります。

### <環境への配慮>

コンパクトな平面形状となるため、中庭や吹抜けを利用し、明るく、自然採光や通風が確保しやすい平面計画とし、特に非空調期における過ごしやすさを高める工夫を行うとともに、屋根・外壁・開口部の断熱性能向上により外皮性能の向上を図ることで、省エネルギー性能を向上させた建築計画とします。

### <音への配慮>

口の字型の平面であることや、体育館が廊下に隣接することもあり、廊下などに音がこもりやすいことが懸念されます。廊下の容積を広くすることや、廊下の開口部を増やすこと、廊下の仕上材の吸音性に配慮することで、喧騒感を抑えます。

### <移動しやすさへの配慮>

生徒数・教職員数が多いことから、移動空間となる階段や廊下はできるだけ広く確保し、また、階段の勾配を緩やかにします。さらに、移動距離の短縮を図ることや、廊下の交差部での衝突が起きにくい(コーナー部の面取りなど) 工夫をします。

### <視線への配慮>

廊下は口の字型平面の内周部に配置する計画ですが、建物外周部との突き当りには開口部を設け、城山や赤間宿など外部へ視線が抜ける空間とします。また、上下階をつなぐ吹抜けを設けるなど、視線の広がりにも配慮し、内外とのつながりを感じながら、気持ちよく過ごせる共用部空間とします。

## 5-6 構造計画と設備計画

### <構造計画の基本方針>

構造計画においては、生徒の日常の安全を確保するとともに、災害時の避難所として耐震条件を満たすことが求められます。このような条件を考慮し、耐震安全性の分類を「Ⅱ類」とします。

### <設備計画の基本方針>

設備計画の基本方針は、維持管理コストを含めたライフサイクルコスト(LCC)の低減を目標としたシステム及び機器の選定を行うこととなります。具体的には、エネルギー消費効率が最も優れている「トップランナー機器」や、保守・管理が容易な機器の導入やシステムの構築を行います。

なお、機器等の選定にあたっては、多様な利用者の立場に立った、取扱いが容易でユニバーサルデザインに配慮されたものであることも重要視します。

## 5-7 設計・工事スケジュール

### <設計・工事スケジュール>

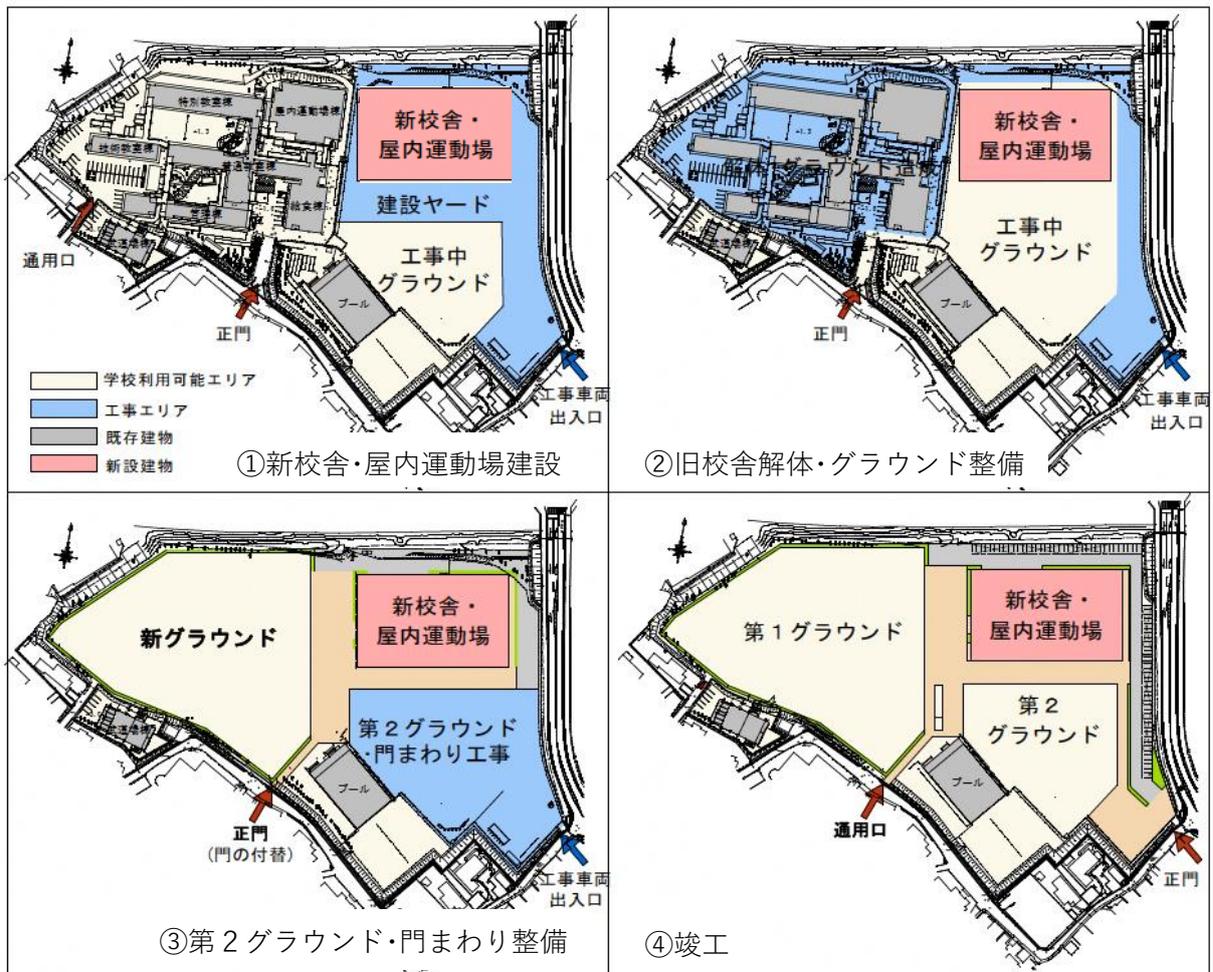
以下のスケジュールを予定しています。

	令和元年度 (2019)												令和2年度 (2020)												令和3年度 (2021)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基本計画	基本計画																																			
設計													基本設計						実施設計																	

	令和4年度 (2022)												令和5年度 (2023)												令和6年度 (2024)												令和7年度 (2025)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
工事													校舎・屋内運動場新設工事、解体工事、外構工事																								★新校舎供用開始											

### <工事工程計画>

以下の工事工程を計画しています。





城山中学校改築基本計画

令和 2 年 3 月

宗像市教育委員会教育政策課学校整備プロジェクト室

〒811-3492 福岡県宗像市東郷一丁目 1 番 1 号

TEL ; 0940-36-9610 FAX ; 0940-37-1525